

第17回全日本高等学校ゼロハンカー大会 岡山県自動車整備振興会が特別番組を制作

令和元年12月27日（木）に岡山県浅口市にある三ツ山スポーツ公園新多目的広場において第17回全日本高等学校ゼロハンカー大会（24分耐久レース）が開催された。（主催：公益社団法人全国工業高等学校長協会、全国自動車教育研究会 西日本地区）

本大会は、高校生にもものづくりの魅力に触れてもらうことを目的として開催しており、高校生が自作したフレームに総排気量50cc未満のエンジンを搭載して、ダート走行可能なサスペンションを備えた車両（ゼロハンカー）で、速さ、耐久性等からその完成度を競う。

今回は、東は三重県、西は鹿児島県から10県27校が出場し、各校、創意工夫された55台の車両がエントリーした。

競技方法は、一次予選でタイムアタックを実施し、その時のラップタイムを二次予選以降の組み合わせの基準とする。

二次予選と三次予選で周回レースを実施し、その着順で、上位10台が決勝に進出できる。

決勝は、所定のコースを24分間走行し、周回数で成績が決定する。

なお、上位3台は、レース終了後、シリンダヘッドを開けてエンジン排気量の測定をする車検もある。

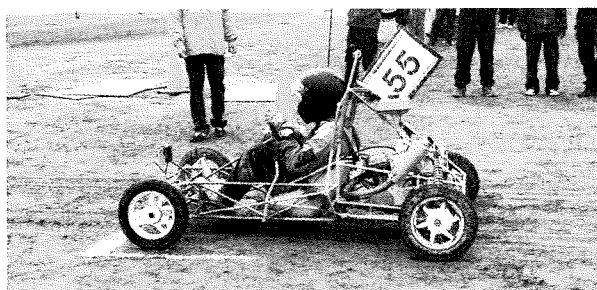
当日は、あいにく小雨が降り、コースがぬかるんでドライバーは泥だらけになっていたが、気合が入っている出場校の生徒たちには全く関係なく、熱気に満ちた大会となった。

レースの結果、開催地元の岡山県立笠岡工業高等学校が優勝した。

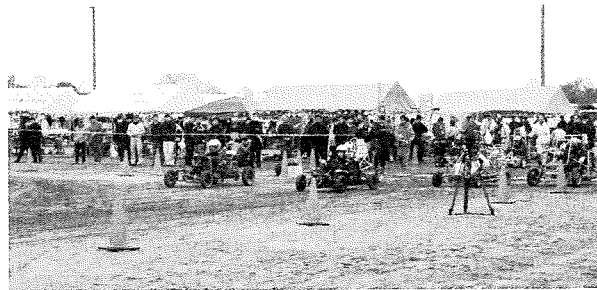
岡山県自動車整備振興会では、本大会の後援団体となっており、更に、自動車整備人材確保の一環として、地元テレビ局（RSKテレビ）において岡山県自動車整備商工組合、自販連岡山県支部と共同で大会の特別番組を制作し、1月26日（土）に放送した。

本番組では、生徒が車に懸ける思いや、車を作ることの楽しさが良く伝わってくると共に、ドローンでの撮影により、いろいろな角度からレースが見られ、車に興味がない方が見ても面白く感じる内容となっていた。

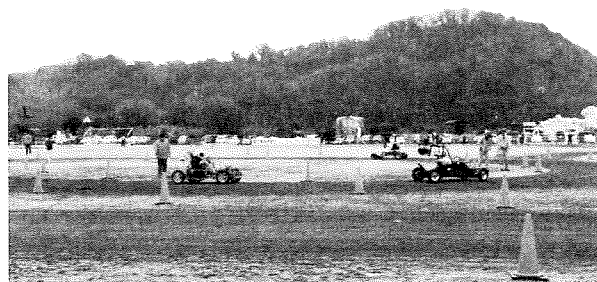
本番組を通じて、若年層に車の面白さと楽しみ方を発信し、将来の自動車整備士の確保に繋げていく考えだ。



手作りのゼロハンカー



レースの様子①



レースの様子②



表彰式